

平成30年度 岡山大学大学院法務研究科
法学既修者C日程 試験問題

刑事法系（刑法，刑事訴訟法）

＜解答上の注意＞

1. 問題冊子は，表紙を含め3枚である。
2. 問題には，問題1と問題2がある。配点は，問題1が60点，問題2が40点である。
3. 表裏に解答欄がある解答用紙は，問題1用と問題2用の2枚が配布されている。各問題ごとに解答用紙1枚を使って解答すること。
4. 解答用紙の受験番号欄に受験番号を算用数字で記入し，また試験科目欄に「刑事法系」と記入すること。なお，整理番号等その他の記入欄には記入しないこと。
5. 試験終了後，問題冊子及び下書き用紙は持ち帰ること。
6. 解答の際は，黒又は青のボールペンを使用すること。
7. 司法試験用六法は貸与品なので，折り曲げや書込みをしないこと。なお，書込み・汚損等がある場合は申し出ること。
8. 試験終了後，解答用紙と貸与した六法を回収するので，指示があるまで席を立たないこと。
9. その他は，すべて監督者の指示に従うこと。

【問題 1】 次の各設問に答えなさい。解答用紙の冒頭に「問題 1」と記入すること（解答順序は問わないが、設問番号を記入すること。また、2問とも解答すること。）。

〔設 問〕 1

家電量販店（以下、店舗という）において警備員のアルバイトをしているXは、某日、何者かが閉店後の店舗に侵入し、商品を盗み出そうとしているのに気がついた。しかし、よく見ると、それが知り合いの甲であることが分かったので、Xは、見て見ぬ振りをすることにした。結果的に、甲は、店舗に侵入し、時価10万円相当のパソコンを持ち去ることができた。なお、甲は、Xの存在には気づいていなかった。

Xの罪責を論じなさい（特別法違反の罪を除く）。

〔設 問〕 2

Yは、心中の意思がないにもかかわらず、Bに心中を持ちかけ、一緒に死ぬと思わせて、それを信じたBは、Yが用意した毒を自ら飲んで死亡した。

Yの罪責を論じなさい（特別法違反の罪を除く）。

《問題1 以上》

《次頁に続く》

【問題 2】 次の事例を読み、後記設問に答えなさい。解答は、【問題 1】を解答した用紙とは別の解答用紙に書き、冒頭に「問題 2」と記入すること。

【事 例】

1 警察官 K は、被疑者 A が自動車を運転中、前方を走行していた V 運転の自動車の後部に自己の自動車の前部を故意に追突させ V に怪我を負わせたとして、傷害の容疑で A を逮捕した。A は、その後、10 日間、勾留された。

しかし、検察官 P は、証拠不十分と考え、A を釈放した。

2 その後、警察官 K が捜査を続行したところ、当時 A の後方を走行していた W 運転の自動車に設置されていたドライブレコーダーに、A が V の自動車に故意に衝突させた場面が記録されていることが判明し、その動画を入手した。

そこで、警察官 K は、再度同じ傷害の被疑事実で、裁判官から逮捕状の発付を得て A を逮捕することを検討している。

〔設問〕

本件において、警察官 K は、再度 A を逮捕することが可能か。

《問題2 以上》

《刑事法系問題 以上》

【出題意図】

問題 1

設問 1 はいわゆる片面的従犯の事例，設問 2 は偽装心中と被害者の承諾に関する事例を通して，刑法の基本的理解と事例処理能力を問うものである。

問題 2

同一被疑事実での再逮捕の可否を問うものである。